

屋久島ラリエーションの森

木の掃除屋

安房小 五年 福元 岳杜

「あ、なんかい。ルリセンチコがネだ。」

お父さんがルリセンチコがネを見つけた。弟
もきょう味深そうに見ていた。

お父さんが、
「岳杜も持ってみる？」

と言った。ぼくは、ちよつといやだなと思っ

たけれど、持ってみることにした。よく見て

いると、意外と面白いなと感じたので、歩き

ながらぼくは、ルリセンチコがネの観察を

した。観察しているところ、ルリセンチコがネは

ゆくりぼくの手をずくと動いていて、面白

かった。手の中で動いたびにくすぐったか

つた。しばらく歩いていると、もう一匹も見

つけた。でも、さすがに二匹は持たなかつた。

一度、飛んでいきそうになつたけど、必死に

追いかけてまたもどした。さうに、港ちそう

になつた時は、もう一つの手で拾い上げて助
けた。一緒に行ったガイドさんが、ルリセン
チコガネはフンコロガシの仲間だ、人間が
きたない。と思うサルのうちなどを食べて
くれる生き物だと教えてくれた。ぼくはフン
コロガシの仲間と聞いて、きたないな、くさ
いのがな。と思つたけど、においをかいでみ
ると、あまりくさくなくて、きたないもなが
つた。それで、もうと面白いし、すごいなと
感じた。最後に、ルリセンチコガネがまるで
「さよなら」と言うように羽を出してふる
わせ、山のおくに飛んで行った。ぼくは思わ
ず、
「え、そんなに飛ぶの。」
とつぶやいてしまつた。一緒にいたガイドさ
んをおどろいて、
「こんななに飛ぶなんて、すごい！」
と声を上げた。ガイドさんはフンを転がすと
ころは見つたことがあつても、こんなに飛ぶこ
とは初めて見たと言つていた。おぼろり、ル

リセンチコガネにはたくさんのすがさがあるんだなと思っただ。

屋久島には観光客がたくさんくるけど、その人たちは、フンはきかないレ。とが、フルリセンチコガネや他の虫もいやだレ。と思っ、て、全部いなくなればいいのにレ。と思う人モいるかもしれない。でも、ぼくは、生き物たちはそれぞれ役ありを持って自然を守っているんだと思う。これかレモ、これかレは、ルリセンチコガネに限らず他の生き物たちと

共に生きていけたらいいなと思っただ。